

WEEKLY SIGNAL

平成27年5月22日(金) 1275号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	5/25(月)	5/26(火)	5/27(水)	5/28(木)	5/29(金)
無担保O/N			0.030% ~ 0.125%		
銀行券	+ 300	+ 1,000	トシ	トシ	△ 1,000
財政他	△ 15,200	+ 11,000	△ 2,000	△ 12,000	トシ
資金需給	不 14,900	余 12,000	不 2,000	不 12,000	不 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	地方貸実行		国債発行(20年) 交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,500 CP等買入 △ 500 社債等買入 △ 400	共通担保(全店) △ 3,900			共通担保(全店) △ 4,700
オペスタート	共通担保(全店) + 2,800 ETF買入 + 200	共通担保(全店) + 7,200			
(日本)	金融経済月報(5月) 貿易収支(4月)	閣議	日銀金融政策決定会合 議事要旨(4月30日分) 岩田規久男日銀副総裁講演 (札幌市)	対外対内証券売買(前週分)	CPI(全国4月、 東京都区部5月) 完全失業率(4月) 有効求人倍率(4月) 鉱工業生産指数(4月) 決済動向(4月) 住宅着工統計(4月)
(海外)	米 株式・債券市場休場 米 フィッシャーFRB副議長講演 (イスラエル)	米 耐久財受注(4月) 米 FHFA住宅価格指数(3月) 米 S&P/ケース・シラー住宅価格 指数(3月) 米 新築住宅販売件数(4月) 米 消費者信頼感指数(5月) 米 リッチモンド連銀総裁講演	米 MBA住宅ローン申請指数 (22日終了週)	米 新規失業保険申請件数 (23日終了週) 米 中古住宅販売成約指数 (4月) 欧 コーロ圏景況感指数 (5月) 欧 コーロ圏消費者信頼感 指数(5月、改定値) 米 サンフランシスコ連銀総裁講演	米 ミシガン大学消費者 マインド指数(5月、確定値)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.070 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

<インターバンク>

当座預金残高は週初208兆2800億円であった。19日には短国・国債買入を主因に211兆円台まで増加した。21日には5年債発行などの要因から208兆円台まで減少したものの、週末は国債買入等を主因に増加して209兆8900億円を越えた。無担保コールON物の加重平均金利は21日までは0.068~0.07%のレンジの堅調な地合いとなった。週末22日はやや強含み、朝方から0.07%台で底堅く取引され、加重平均金利は0.072%(速報)となった。ターム物は、1W物で0.11%台後半の出合いが散見された。22日の日銀金融政策決定会合では金融政策の現状維持が決定され、国内景気について、「緩やかな回復を続けている」と、前回表現の「緩やかな回復基調を続けている」から変更された。

22日の日経平均株価の終値は20264.41円となり、2000年4月14日以来15年1か月ぶりの高値を付けた。

来週の材料は、国内では金融経済月報(25日)やCPI(全国4月、東京都区部5月)(29日)、海外では新築住宅販売件数(26日)などが挙げられる。

[オープン市場]

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.075 ~ 0.085
TDB 3M	△0.005 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約8,000億円で、期落ち額約5,000億円(金融機関・ABCPを除く)を上回る結果となった。a-1格相当銘柄の3M物の入札発行レートは、先週と変わらず0.070%台半ば~0.110%台近辺で、横這い圏内での出合いとなった。現先レートは、0.060%~0.100%程度の動きであった。来週の期落ち額は、期末日の大量償還(約9,100億円)があり、約1兆2,000億円となっている。来週26日には、CP買入オペのオファー(2,500億円)が予定されている。

<TDB>

21日に国庫短期証券3M第534回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0040%(前回債0.0000%)、平均落札レートは0.0012%(前回債△0.0036%)と前回債から利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで0.002%近辺の出合い。6Mは目立った出合いは見られず、1Yは△0.019%近辺の地合いであった。来週28日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初短国1Yの発行もあり、先週末よりレート上昇し0.06%台での出合いから始まった。週央にかけては発行等の要因によりレートが次第に上昇し、短国3M発行日となる5/25受渡では0.08%台での出合いも一部見られ、週末には短国買入オペが見送られ前日と同水準の0.08%近辺での出合いとなり越えた。SCは10年337回債がON物・ターム物ともに週を通して深いネガティブレートで推移した。10年323回債は週半ばにかけてON物・ターム物ともに深いネガティブレートで出合っていたが、週後半にはレート上昇し一部ON物で0%近辺での出合いも見られた。2年債は351・352回債、5年債は123回債、10年債は323・325・337・338回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。